

バンクーバー便り 19～『鳩のお墓』

バンクーバー時間：2024年2月27日火曜日午後 5時0分

日本時間：2024年2月28日水曜日午前10時0分

皆さん、今日は。今回は『鳩のお墓』というテーマでお話をします。

2024年2月25日日曜日の朝のことです。娘が玄関を出て直ぐに「鳩が死んでいる。」と血相を変えて戻ってきました。最初は何を言っているのかがわからず、聞き流そうかと思っ
ていましたが、その様子が切羽詰まっているようなので、娘に誘われるまま玄関から外を見ると、塀の下に綺麗な河原鳩がお腹を上にしてぴんと張った翼を背にして死んでいました。娘の驚くのも無理はなく、私自身もどうしたものかと困惑しました。この鳩は隣家の軒下に巣をつくり、小鳩を育てていた親鳩の1匹ではないかと思いました。娘と恐る恐る近づいてみると、のどから胸のあたりに咬み傷があり羽毛がむしり取られて胸肉が見えていました。

頭は咬み千切られたのかありません。周りには^{むし}筆りとられた羽が散在しており、娘が中庭のあたりにも羽毛があるというので、一緒に見に行きました。そこには鳩の羽毛がちりばめられており、その中心あたりの敷石に血痕が付いていました。恐らくここで鳩は襲われ、咬まれたまま玄関前の塀のところまで運ばれ、何かの事情でそこに放置されたのでしょう。

日本でしたら小動物の遺体を見つけたときに保健所に連絡するのですが、バンクーバーではそういうわけにもいかず、生ごみのカートに放り込むのもどうしたものかと迷ってしまいました。二階にいた家内にも声をかけ、どうするか相談をしました。娘は日課になっているサンセット公園の水たまりのような池にいるカモにパンをやりに行きたいというので二人で出かけました。小さな池は数日雨が続きと水がたまり、溢れんばかりになりますが、雨が止み、日がたつと干上がりそうになる池で、普通カモの来るような池ではありません。どう
いう理由かはわかりませんが、カモのカップルが住んでおり、池が干上がってしまうと近くの大きな池に一時避難するのだらうと思います。時にこのカップルの子どもかもしれないカモが同伴することがあります。

鳩とカモの謎を、娘は次のように推理していました。近所で稀にみることのあるアライグマが鳩を襲って上半身を食べようとしたけど、塀を超えられず放置して出て行ったというものです。一方、カモは近所の人々が数年前から池にいると聞いていたので、娘の推理は次のようでした。カモはこの池で生まれ、水がたまとカップルで飛んで戻ってきて、水の条件が良ければ子育てをしようとしている、というものです。この推理の真偽のほどは不明ですが、さもありなんと
思っています。

カモに餌をやって帰ってくると家内と娘は鳩の死骸をサンセット公園に埋めてあげること
を考えていました。私も大賛成。家内は鳩の死骸を箱に入れ、公園の丘のふもとにある立木の根元に埋めました。娘は丘から小さな野花を摘んできて供えました。クリスチャンの娘は鳩の魂が天の神様の下で安らかに休めるようお祈りをしました。翌日、私は娘の小学校へ向かうプロムナードで小石を拾い、鳩の墓標としました。娘はその墓標に「qoqo」と書き、

亡くなった鳩にクークーと名前を付けていました。

《付記》 今日、娘を小学校に迎えに行くとガンが雪の校庭にいました。

カナダ・バンクーバー(ダウンタウン以外)では自然と人が交わる場所が至る所にあります。そして人は自然を傍観するのではなく、人は自然の営みと共に暮らすことができるように思います。この自然が小さな動物たちを通して、生きること・死ぬことの尊さを娘に優しく教えてくれています。いい声で隣の軒先から鳴いていた鳩はもはやこの世にはいません。惨い死ですが、自然の摂理によって浄化された命の愛おしさが、そこはかたなく娘や私たち夫婦の心に忍び籠むように思えてきます。



